

議会報告会結果報告

開催日時	令和元年（2019年）5月19日（日）14時～16時			
開催場所	大船学習センター3階 第1集会室			
出席議員	班長	納所 輝次		
	司会	山田 直人		
	くりはら えりこ	竹田 ゆかり	中村 聡一郎	長嶋 竜弘
	武野 裕子	西岡 幸子	日向 慎吾	池田 実
	久坂 くにえ	安立 奈穂	高野 洋一	納所 輝次
	山田 直人	河村 琢磨	伊藤 倫邦	吉岡 和江
参加人数	18名			
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年2月定例会の報告（各常任委員会、一般会計予算等審査特別委員会） ・意見聴取会（テーマ『共生社会について～多様な生き方を認め合える社会について～』） 			
内 容	<p>【委員長報告への質疑】</p> <p>Q1．岩瀬子ども会館が利用者に説明もなく閉鎖される。子どもが安心して遊べ、子育てを伝授する場として維持してほしい。条例が可決された後も、変更できるのか？</p> <p>A1．一般会計予算等審査特別委員会でも多くの質疑があり、理事者へも質問する議員がいたが、多数の議員の挙手により議会で可決された。本日承ったご意見については、各議員が受け止めた上で、各議員がどうしていくかという話となる。</p> <p>Q2．梶原と岩瀬子ども会館の閉鎖の判断の違いは何か？</p> <p>A2．梶原は民間団体が指定管理者であることもあり岩瀬は放課後かまくらっ子があるから、岩瀬は無くしても大丈夫と判断されたと理解している。</p> <p>Q3．村岡新駅について、「戦略的新駅」とは何か？</p> <p>A3．新駅を造るのに際し、ウェルネスの観点など、地域を開発していくという戦略をもって駅を造ることである。費用については、請願駅は地元が負担するが、戦略的新駅の場合はJRも応分の負担をする。</p> <p>【意見聴取会での意見】</p> <p><u>共生社会について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会とは どんなことか 幅広くてよくわからない。もっと具体的なないようでないとうわからない。 ・イメージがわかりにくい。言葉を作り上げるよりも、活動の蓄積が共生社会につながるのでは？ ・近隣とのコミュニケーション（特に若い世代の転入者）が薄くなり回覧板式になっている時代。どう助け合えばいいかわからない。 ・認識に幅がある。 ・ギブアンドテイク。今の人は与えてほしいばかりが多すぎる。 			

- ・共生社会と言っても隣近所との関係もある。周りの目も気になり、なかなか言い出しにくい現実がある。
- ・みんながつながること。それが共生のイメージ。そのためにも場が必要。
- ・「共生」のイメージ 性別、年齢など一人ひとりが差別なく生きられる社会。
- ・交通費への補助があると外出しやすくなる。
- ・民生委員児童委員が子ども会館で様々な世代をつなぐ取り組みをされており「共生」の視点からも重要。
- ・「場」を新しくつくるのは本当に大変なこと。共生という点からも市民に十分な説明が必要。
- ・行政センターをなくしたり、コンビニ納付の話についても、それが出来ない人達への配慮が必要。共生というならなくさないで欲しい。
- ・子どもの虐待防止を進めるためにも共生社会の「つながる」視点が大切。くらしの目線で。
- ・子どもも大人も安心して住み続けられるまちづくりが共生である。
- ・共生社会というと定義が難しく捉える人もいるが、決してそうではないと思う。様々な人間がそれぞれ尊厳を持って生きていけることが大切。鎌倉市は子どもの難民が出る。高齢者も子どもも一緒に生きていける社会。集まる場所。外に出ていける人は良いが、出て行けない人もいる。交通費がない人もいる。貧困の問題もありテレビばかり見ている。
- ・共生とは教育にあるのではないか？子どものうちから教えるべき。
- ・コミュニティが必要。色々な人が生きていることを知って欲しい。
- ・マンションが増えている現状。子育てを一緒に出来る環境が出来れば良いのではないか？
- ・お母さんを一人にしない。民生委員の人がサロンなどをやってくれているが、市は民生委員任せである。
- ・共生となる拠点が必要だと考える。多世代をつなぐ場所。
- ・みんながつながることが共生。そのための場所。つながる場。つながり合い。
- ・今、形が出来ているものをなぜ変えるのか？新しく作っていくのは大変である。
- ・全てをデジタル化するのではなく、アナログとの共生も。
- ・個人でのたすけあいには限界がある。共生という綺麗な言葉だけを作るのではなく、公が担う役割は大きい。認識した施策の展開を。
- ・大人も子どもも安心して住み続けられるまちづくりを。
- ・共生の定義とは何か。
- ・性別、経済、教育、宗教など様々である。
- ・共生と言われてもテーマが大きすぎる。
- ・テーマにするのは難しかったのではないか。
- ・市の考えを市民に伝えてもらわないとわからない。
- ・自分のまちとして具体的なことが必要。どういうまちにしていくのか。
- ・議員と市民で共生をしていきたい。

- ・対話する機会を増やし、コミュニケーションをとりたい。
- ・市民も積極的に勉強をして、市民も考えなきゃいけない。
- ・条例も時代に合わせて変えていくべき。議員が変えていく。
- ・双方にメリットがあるようにすることが共生。
- ・議員間の共生。
- ・まず理解しあうことが大事。
- ・対話が信頼を生み出す。

理想の共生社会とは

- ・まずは感謝の気持ちを持つ事が大前提。それをどこまで恩返し出来るのか。
- ・SDGs はわかりにくい。誰でも分かりやすい日本語、言葉を使って市民に説明すべき。そうすることが共生社会でないか。
- ・津久井やまゆり園での事件には、労働環境などさまざまな問題もあったはず。加害者のような気持ちは誰にでも少しはあるかもしれない。これを共生社会と結び付けるよりも、今後同じ様な事が起こらないための改善策を考えるべき。
- ・地域の一つひとつの小さな声を聞くこと。今泉の空家は60件ほどある。そのうちの1軒でいいから補助金を出して、学習出来る居場所づくりをしたり、いわせ子ども会館を子どもたちの居場所として残すべき。(大船地区は資生堂跡地や自動車学校跡地にマンションができ、人口も増加傾向なのに人の流れに逆行している)

施設利用について

- ・「共生」を言うなら、すこやかセンターやさわやかセンターを60歳以上とせず、子どもも利用できるようにすればいい。しかし子どもがそこまで行けるようなところではないが。便利な場所がよい。おばあちゃんがお風呂に入っている間、子どもが遊び、帰りは一緒に買い物をして帰ることもできる。今は施設別に別々になっている。
- ・学校の給食室を使って子ども食堂ができるのではないか。しかし、先生の負担が増えることから、学校の施設を使うことを先生方は嫌がる。2年ぐらい前に第一小学校を申し込んだが断られた。子どもひろばも年寄りがボランティアでやればいいが無理かもしれない。

岩瀬子ども会館について

- ・子どもが利用している場をなぜなくすのか。
- ・岩瀬子ども会館は閉鎖し、なぜ梶原は子どもの施設として残すのか納得できないとの訴えについて、共生社会という点で大事な問題ではないか。
- ・岩瀬子ども会館の場所は52年前に地域の力で広場となり多世代の居場所に。
- ・52年前に無償で広場として貸してくれ、子ども会館が出来た。過去の歴史も大切。
- ・子どもも高齢者もともに過ごせる(支えられる)居場所。
- ・畳の部屋があり、授乳も出来たし、高齢者が将棋や囲碁を指したり教える事も出来た。
- ・行き場所が必要。子ども会館は本当に良い。それが無くなるのは残念でならない。

- ・市民として 子ども会館問題について、議会への陳情を提出することが出来る その中で議論してもらえる。山崎焼却施設問題では 4 回陳情を出してきた 市民としての努力も必要。

議会報告会のあり方について

- ・議会報告会は議会の論議、賛否について市民に説明すべき、議会での論議が聞きたかった。
- ・市民として議員に言える場がもっとほしい
- ・今日みたいな場を四半期に一度くらいやってほしい

議会のあり方について

- ・議会として、議決する前に参考人を呼ぶなど、賛否を市民から良く聞くべきではないか、その前に議会としての議論を尽くすべきだと思う。
- ・松尾市長になり、問題がたくさん先送りされ、解決していない。ごみ問題、深沢まちづくり、北鎌倉洞門、岡本 2 丁目問題、野村研究所跡地等々議員がもっと動くことが必要ではないか。
- ・議案に対して反対するだけでなく、代替案や議員としての意見をきちんともってほしい。(そのための財源確保策についても)

市政について

<行政>

- ・なぜ指定管理者制度をやるのか。プロフェッショナルが職員にいなくなる。
- ・ごみ問題が最重要課題。
- ・観光客が大勢来ているのに、なぜお金がないのか。
- ・市の実態を市民が知っているのか。
- ・SDGs は広いので具体的にしてほしい。
- ・これから人口が減っていく中、子ども会館は閉館するが駅はつくる。収益は上がるのか。
- ・利用者や地域に話がなく、議案になっている。
- ・地域によって考え方が違う。

<開発>

- ・大町の名越自治会は、コミュニティーがうまく作られている。そこに 10 区画の開発計画があるが、開発に伴う道路は袋小路。そこだけ他とのコミュニティーが寸断される。開発業者は売ってしまえばいいというのは、いかがなものか。住環境を重視してほしい。

<ごみの収集>

- ・ごみの戸別収集はやらないのか。これから高齢者が増える。

<道路>

- ・鎌倉の道路は今後、車いすの人が走る道路になっていく。高齢者、ベビーカー、障がい者にやさしい道路にしてほしい。観光客のためにも雨水を吸い込む歩道、インターロッキングなどに。セットバックした道が、舗装されずそのままになっているのも何とかしてほしい。

<一人暮らし高齢者>

- ・核家族が増えたので、施設でイベントをして多世代交流をしたらどうか。市役所の駐車場を使ってとかも。一人暮らしのお年寄りについては、75歳以上の高齢者の名簿をもらっている。回覧板を回すときに様子が分かる。議会報告も回覧板で回した方が、ポスティングでお金をかけるより良いのでは。

<駅のバリアフリー>

- ・特に鎌倉駅と江ノ電の乗り継ぎではやってほしい。鎌倉駅は鎌倉の顔だから。

<村岡新駅、市庁舎移転について>

- ・深沢地域の開発では、JRの引き込み線を外さずそのまま深沢まで引けばよかったのに。市庁舎移転しても道幅が狭いので、大丈夫なのか。市庁舎移転は決まったのか。ほかの市長になったら計画が変わることがあるのか？どこに建てるのか、早く決めてほしい。市長と話がしたい。
- ・村岡新駅、市庁舎移転についての財政的な問題はどうか。

<防災について>

- ・目と脚が悪いので、岩瀬1丁目から大船小学校まで行けない。防災拠点として子ども会館を整備して欲しい。
- ・岩瀬の避難場所は岩瀬中学校だが高齢者は行かれない。歩道がない場所もある。
- ・防災公園なのに屋根がない。
- ・避難場所のトイレも普通のトイレでは座れない人もいるトイレの改善を。